

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 30 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国ルオー学術保護区ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生ボノボの予備調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 6 月 28 日 ~ 平成 30 年 7 月 28 日 (32 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所 古市剛史教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回のコンゴ民主共和国ワンバ村への渡航は、野生ボノボの非侵襲的 DNA サンプルングを目的とし、ワンバ村にて以下の日程で行われた。
2018/6/28 成田国際空港発 2018/6/29 ドバイを経由し、キンシャサ着 2018/7/3 ジョル着 2018/7/4 ワンバ着 2018/7/5-23 フィールドワーク 2018/7/24 ワンバ発ジョル着 2018/7/25 キンシャサ着 2018/7/28 ドバイを経由し、羽田国際空港着
今回のワンバ渡航は、私にとって 2 年ぶり 3 回目の渡航であった。2 年のブランクの後で村人と上手く信頼関係を築けるか不安であったが、皆様優しく迎えてくれた。一方で、現地では話されるリンガラ語は忘れていた部分が多く、基地の運営に苦労した。
調査では、糞、尿合わせて 60 試料採取した。これまでの実験で、既存の DNA 試料を消費したオトナ個体を中心に採取した。終日追跡が継続されている E1, PE 集団のほぼすべてのオトナ個体から試料を採取出来たのはよかったと思う。これらの試料に各個体の DNA が十分に含まれていれば、今回の調査は概ね成功だったといえるだろう。
また、DNA 試料の採取以外でも、現地のカウンターパートと遺伝資源の輸出入について、話し合えたのは良かったと思う。遺伝資源の輸出入の規制は年々厳しくなっているので、これからも動向に注意を払いたい。また、これまであまり綺麗なボノボの写真を持っていなかったが、いくらか良い写真が撮れたのも良かったと思う。これからの研究発表の場で使っていきたい。最後に、久しぶりにボノボの行動を観察し、ボノボの暮らしを肌で実感できたのも良かった。私の遺伝分析の結果からは、個体間の血縁関係や、メスの分散パターンが示唆されているが、それらが実際に目の前にいるボノボに当てはまるかを考えられたのは貴重な経験だったと思う。今回の調査を生かし、学位の取得に向けて邁進していきたい。
6. その他 (特記事項など)
本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、霊長類研究所・古市教授、およびワンバ村で様々な支援をしてくださった皆さまに感謝申し上げます。

